

すごくたくさんの方々に被害を
あたえたのです。1968年には、
南ベトナムのソンミ村にはいっ
たアメリカ軍が、老人や女性ば
かりの農民を北ベトナムの味方
と見なして虐殺し、その写真が
公開されると世界に衝撃をあ
たえました。



○ベトナム反戦の市民運動

東京都練馬区から埼玉県南部
の一角には、アメリカ軍の朝
霞基地がありました。1968年、
練馬区大泉の住民を中心に、
「ベトナム戦争に反対し、朝
霞基地の撤去を求める大泉市
民の集い」がはじまり、鉄条
網ごしに反戦ビラをアメリカ
兵にわたすなどの活動をおこ
ないました。

ベトナム戦争と日本

ベトナム戦争は日本人にとって身近な戦争でした。
日本のアメリカ軍基地から毎日のように爆撃機がと
び、基地周辺のようにも報道されました。労働者や
市民がベトナム戦争に関心を持ち、アジアでおきて
いる戦争、強大なアメリカが参戦したベトナム戦争
に反対する運動が、各地でおこりました。

1965年に、「ベトナムに平和を！ 市民文化団体
連合」(ベ平連)という市民運動がおこります。この運
動は、それまでの労働運動や政党の組織と異なり、
立場のちがいをこえてベトナム戦争に反対するとい
う一点で協力するものでした。そのため、「来る者
はこぼまず・去る者は追わず」の自由意思による参
加を原則としました。

ベ平連には、学生から社会人や主婦など、幅ひろ
い人びとが参加し、新聞への反戦広告や投書、脱走
アメリカ兵の国外逃亡をたすける運動など、ベトナム
戦争に反対する活動をつづけました。

ベ平連の中心的な参加者のひとりに、作家の小田

期にわたって日本に居つづけたことで、航空機や船舶の修理から、機械や繊維製品、金属、木材やジープ、軍用トラックなどの調達にいたるまでさまざまな需要が生まれ、日本は経済的に大きな恩恵を受けました。



ベトナム戦争は、1975年に、アメリカが事実上支配していた南ベトナム政府から手をひいたことにより、アメリカの敗北というかたちでようやく終わりました。

高度成長の時代は、アメリカとソ連の冷戦の時代でした。日本はアメリカと日米安全保障条約(安保条約)をむすび、政治や経済の面でふかい関係をつくります。そのことが沖縄や基地周辺に負担をかけ、アメリカが参戦したベトナム戦争に大きくまきこまれる原因になります。朝鮮半島や中国との国交回復にも、アメリカの影響がありました。

ベトナム戦争は、1960年代における日本の位置をよくしめすものでした。アメリカとソ連の冷戦のもとで、日本はアメリカにすっかりよりそって、アメリカによるベトナム戦争から大きな経済的恩恵を受け、高度成長を加速させます。しかし、ベトナム戦争の実態がはっきりとみえるなかで、アメリカにひたすらしたがう日本の立場がかかえる大きな問題点もわかってきました。ベトナム戦争は、戦後の日米関係と冷戦を考えなおす、ひとつのきっかけになりました。

◎フォークゲリラ

反戦運動のひとつとして、東京の新宿駅西口地下広場ではフォークゲリラが開かれました。毎週土曜の夜、ギターをもった若者を中心に5000人から1万人もの人びとがあつまり、「機動隊ブルース」などの歌をうたいました。写真は、1969年5月26日のフォークゲリラのようすです。